

2015年度教師海外研修(ガーナ) 研修報告書

学校名	小牧市立米野小学校	氏名	青山 英孝
-----	-----------	----	-------

1. 現地研修に対する各自の目的 とその達成度

(特に、現地研修の経験を生かす授業実践に資することについて)

研修前の子ども達や同僚のガーナ観を要約すると、自身も含めて「具体的なイメージや位置関係が不明瞭」「危険や未開の地、不衛生を連想する国」という先入観や偏見を持った見方や考え方が多かった。約2週間の滞在を通して、自己認識の甘さや固定観念の怖さを実感したからこそ、子ども達には書籍や旅番組から得るガーナ観ではなく、ありのままのガーナの姿を伝えたいと思う。

また、研修地では、たくさんの人々と出会うことができた。これが一番嬉しいことであり、且つ何事にも換え難い大切な財産になった。エネルギー溢る姿を連発する発展途上国に加えて、ガーナで暮らす人々が多様だからこそ、ガーナという国に対する思いや感覚が多様になると実感した。

そんな内容や場面を、多種多様な人から直接話を聞いたことは嬉しかった。これから実践する授業では、実際に見聞した貴重な題材を整頓し、ガーナの魅力や抱えている課題に迫れるような教材を開発したい。そして、現地の状況が切実に伝わる資料を使い、子ども達の一面的なガーナ観をほぐすことから始め、ガーナに関する社会的事象について仲間と共有したり、話し合ったりする活動を通して、現代ガーナに対する多様な見方や感じ方に触れる機会を学習者に提供していこうと思う。

2. 訪問国から学んだこと (気づいたこと、わかったこと、大切に思ったことなど)

(1) 柱1「訪問国に肯定的に出会う」という観点から

どの国を旅しても同じだと思うが、日本の生活スタイルや習慣など、自分を取り巻く感覚と比較すると決して肯定的な見方は生まれない。やはり現地の人に直に触れ、生活の息吹を直接肌で感じてこそ、そこで暮らす人々についての興味や関心が高まると思う。ガーナの人々の笑顔や親切心、誠実な言動に多く触れて、自分寄りの物差しでその国を覗こうとする感覚の無意味さを再認識した。

また、経済的な指標だけでガーナの豊かさや、心の満足度を計ってはいけないことを実感した。確かに日本と比較すれば貧困な生活に見えるが、路地で炉を囲んで朗らかに食事の支度をする家族の温かい絆、素足だが友達と元気よく青芝の茂る運動場を駆け回る子どもの笑顔、活気溢れた市場や道路に沿った店で中古品を買い求める買い物客のエネルギー溢る光景は印象的だった。そんな豊かで温かな人間関係の中で暮らす人々を垣間見ていると、日本が発展の代償として失いつつある、人の顔が見え、つながりを実感するという人間の営みで大切にしたい価値を語りかけてくれた。

(2) 柱2「日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する」という観点から

ガーナでは熱帯気候のためパイナップルが収穫できる。かつて青年海外協力隊として、貧困を救おうと、ひょうたん型をしたファンティパイナップルを、痩せた大地一面に育てようと情熱を注いだ武辺寛則さんの活躍を知った。芯まで甘く、柔らかな食感に、ひとくち食べて虜になった。そして、今なお彼の生き様や遺志を受け継ぎ奮闘する村人や、村の発展のために鼓舞する青年海外協力隊に感銘を受けた。

また、今から80年以上も前に、遠く離れたアフリカの地で人類のために命がけで黄熱病の研究に献身した

日本人に誇りを感じた。アクラ大学内にある研究所では、ガーナの若手研究者や日本の医師がその精神や遺志を受け継ぎ、新たな感染症を撲滅するために最先端の治療法の確立に向けて尽力する姿に、時と国を越えた連綿としたつながりを感じた。このほかにも、日本の自動車産業の主要メーカーの車種が往来したり、高い技術力を持つ電気機器メーカーの電子製品がガーナの生活向上に貢献したりしている光景から、人のつながりだけでなく、技術や工業製品等の新たなつながりが生まれ、その恩恵を受けて、日本との間に強固な友好関係が構築されていると実感した。

(3) 柱3「共通の課題について共に考え・共に越える」という観点から

教育の大切さを強く感じた。ガーナでは学校や教材が不足し、教員の意識も低く、国策として基礎的な教育の充実が求められていた。人々は一生懸命働いて、頑張っているが、やはり教育は何をおいても大切だ。確かに勉強をしなくても生きていけるかもしれないが、心豊かに生活していく上でのちょっとした知恵や常識は、教育で培っていくものだと思う。先進国でも開発途上国でも、教育がその国の人を創る、そして、人が国を創り上げ、さらに国を豊かにすると感じた。

また、負の遺産を正しく伝えていく大切さも実感した。ケープコーストには物扱いされた奴隷を集めて競りをした建物が残されていた。足かせをはめられた群衆が、国外に連れ去られた悲しい歴史や悲痛の思いを伝えるためにこの世界遺産はずっと守り続けていかなければならないと思う。

最後に、相手と分かり合えた上での交流や支援は、両国に感謝と尊重の気持ちを育むと感じた。野口記念医学研究所や国道8号線、太陽光プロジェクトのように、日本の視点から支援の在り方を模索せず、その国の文化や風習、経済状況等を考慮した支援を継続すること、そして、相手に寄り添った形式的な支援ではなく、相手国が自立できるように段階的な支援を行う大切さを知った。

3. JICAの国際協力事業の「良い!と思ったところ」と「今後あるといいなと思う視点」

ガーナでは国際協力事業として、電力や道路等のインフラ整備、米の収穫量を増やす等の農業支援、老若男女を問わない手厚い保健医療の支援が三本柱となっていた。このほかにも、行政や教育の制度やシステムへの助言なども積極的に行っていた。そして、常に相手国の状況と要望を的確に把握しつつ、押しつけにならない持続可能な支援や援助を行っていることが素晴らしいと感じた。

今後は、現在孤軍奮闘する青年海外協力隊が、派遣地の住民とさらに手を携えて国際貢献事業に取り組めるように、派遣地だけに止まらずガーナ国内にまで人的・物的ネットワークを広げられると良いと感じた。つまり、各地における「点」としての貢献ではなく、点と点を結び「線」としての大きな貢献が生み出せるような支援・援助の在り方が模索できたら、尚更素晴らしいと感じた。

4. 訪問先ごとの「感じたこと」や「学んだこと」

※別掲

5. 印象に残る写真2点 とその解説

●写真1… [KEN_0506]

- ◇キャプション：ココを割って、ココを見なきゃ！
◇解説文：枝だけでなく幹にも実のなる風変わりなカカオ。堅い殻の内側から甘く白い果肉が顔を出す。発酵した種子は魅惑の香りを漂わせ、やがて世界に旅立っていく…。



●写真2… [AOS_3320]

- ◇キャプション：“DOOR OF NO RETURN”を背後に願うこと
◇解説文：有名な扉の外は砂浜が迫っていた。非人道的な行為を見続けた生き証人として、再び「黒い積荷」を送り出すことのないよう強く平和を願う。穏やかな海原が続きますように…。



6. 来年度参加する先生へのアドバイス（持ち物、必要な準備、学びの視点、注意事項など）

研修地において男性の正装は、クールビズで大丈夫だった。ただし、襟付きのシャツが必需となる。念のためネクタイを持参したが1度も使わなかった。地方の役所や教育事務所、企業、懇親会等ではジャケットを着用したほうが相手に対して非礼にならない。マラリア対策として、日本から持参した蚊取り線香は効果的だったが、室内が煙たくなり衣服や持ち物にも臭いが付いてしまった。心配な人は数種類のアースマットや空間用虫除け剤を持参し、同時に使用するといい。電源コンセントの形状はC型が一般的と多くの旅行書籍に記載してあるが、宿泊したホテルはBF型だった。ただし、最上部の穴を棒等で押し込めばC型でも使用することが可能だったので安心してよい。

毎日の見聞がかなり刺激的なので、漠然と研修に臨んでも学びが深まらない。参加通知を受け取ってから出発まで時間が少ないものの、目的意識を明確に持ち、準備を進めることが大切だ。特に帰国後の授業実践をイメージしながら、日々の研修地で必要な情報や資料を収集することを強くお勧めする。また、写真も大いに参考となるが、現地の人々の生の声や青年海外協力隊のインタビュー等の動画は雰囲気や臨場感が伝わり、子ども達に提示するのに効果的だと感じた。

最後に、本場のガーナチョコを職場や家族のお土産にしようと買い込むと、その重量に驚かされる。カカオの密度が高いのか、3種類のチョコを大量に買ったらか何と10kgになってしまった。

7. その他全般を通じての感想・意見など

研修地での安全確保や毎日の行程の配慮が素晴らしいと感じた。当日に急遽都合が悪くなくても柔軟に行程を変更したり、工夫したりしていただき実りの多い研修を過ごすことができた。現地の職員の方々をはじめ、

同行していただいたスタッフ、日本からサポートしていただいた関係者のご尽力に深く感謝したい。また、日々の研修について、毎回必ず仲間と意見や感想を共有する場面があり、しかもシェアする手立てや方法も毎回工夫されていて、同じ訪問地でも多面的・多角的な見方や考え方を習得できる機会を作っていただき大変有り難かった。行程の前半は訪問する研修地が続き、消化不良になりそうだったが、途中から1日概ね2ヶ所程度の訪問にも慣れたので、適切であったと感じた。最後に、教師としての研修なので、現地の教師の行う授業場面や、青年海外協力隊の方々が実際に活動されている場面を参観できると良いと感じた。また、子ども達と遊びを中心とした交流だけでなく、現地の子も達と何らかの形で、授業や教室の中で関わりを持ちたいと強く思った。

以上

